

# Advance

## ～精神科薬剤師の明るい未来を目指して～

発行：PCP研究会広報委員会

### 世話人代表挨拶

精神科臨床薬学（PCP）研究会発足後1年が経過しようとしています。この間、上半期に開催させて頂きました全国8ブロックの講習会には800名以上の先生方にご参加頂き、ありがとうございました。御蔭様で現在会員数も約1,050名に達し、下半期の講習会には、更に多くの先生方のご参加を頂きました。開催日程などにより、ご参加頂けなかった先生方には大変申し訳ありませんが、Newsletterにより本会の運営状況をお知らせすると共に、講演会のDVDなどをご利用頂きたいと思えます。新たな年度には、更に精神科薬剤師業務の向上を目指した活動を行って行きたいと思えますので、ご期待下さい。

昨今の医療情勢や社会情勢から、精神科医療も大きな改革を求められています。特に精神科においては、マンパワーの充実、病棟機能の再編、情報公開、社会的入院とその予備軍の解消などが、精神保健改革のグランドデザインに示されています。我々薬剤師にとっても、大きな改革が求められることは避けられません。精神科医療における薬剤師の役割を国民から認知されなければ、未来はありません。薬学教育6年制も2年目を迎えますが、新たな臨床教育は実務実習の充実が必要であり、そのため、我々現場の薬剤師が行う薬剤師業務の充実も求められます。「精神科医療によろこそ！」といえる魅力ある精神科薬剤師業務を構築していかなければなりません。また、日本病院薬剤師会による精神科専門薬剤師認定制度もいよいよ開始されようとしています。精神科チーム医療に無くてはならない専門家として認知されるよう全会員で頑張りましょう！Advance 精神科薬剤師の明るい未来を目指して！！ (吉尾 隆)

### 全国処方調査中間報告

創刊号において募集いたしました全国処方調査に、多数のご施設より参加希望をお寄せ頂き、ありがとうございました。そして実際に調査にご参加下さいました先生方、ご協力ありがとうございました。ご提供いただきましたデータについて集計結果を報告いたします。

★参加施設数：60施設      ★施設データ数：9,183症例（男/女：4,947/4,236）

	平均処方剤数	平均投与量	単剤化率
<b>抗精神病薬</b>	<b>2.2剤</b>	<b>875.8mg（CP換算）</b>	<b>29.2%</b>
抗パーキンソン薬	0.9剤	2.6mg（BP換算）	
抗不安薬・睡眠薬	1.5剤	16.0mg（DAP換算）	

尚、本調査結果は、5月17～19日に高知県で開催される「第103回日本精神神経学会」において、『統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2006年）』として発表する予定です。昨年に引き続き、精神科における処方実態の基礎データを収集する目的で処方調査を行いました。多くのご施設からデータを提供していただいたことで、新たな考察を付け加えることができそうです。今回の発表は、PCP研究会が今後、精神科薬剤師ならではの提案をしていくための「礎」の発表になると確信しております。今後も引き続き、ご協力をお願いいたします。（PCP研究会調査委員会）

## H18年度下半期の活動状況

ブロック	北海道	東北		関東・甲信越ブロック		
開催地	札幌	仙台	盛岡	東京	千葉	
開催日	11月18日	11月25日	11月26日	3月11日	2月25日	
講演Ⅰ	所属	大江病院	千歳篠田病院	佐藤病院	東京慈恵会医科大学	放送大学
	講師	鎌田裕樹先生	奥山直行先生	栗田征武先生	宮田久嗣先生	仙波純一先生
講演Ⅱ	所属	中江病院	千歳篠田病院	佐藤病院	恩方病院	浅井病院
	講師	中山 誠先生	奥山直行先生	栗田征武先生	堤祐一郎先生	浅井禎之先生
参加人数	47	23	25	未	40	

ブロック	関東・甲信越ブロック	東海	北陸	近畿		
開催地	大宮	名古屋	金沢	大阪①	大阪②	
開催日	2月4日	3月4日	1月14日	1月14日	2月25日	
講演Ⅰ	所属	筑波大学	藤田保健衛生大学	福井県立病院	京都大学	京都大学
	講師	河合伸念先生	岩田仲生先生	木原義春先生	岡田 俊先生	岡田 俊先生
講演Ⅱ	所属	川口病院	大湫病院	金沢大学	京都大学	京都大学
	講師	柴田 勲先生	江口 研先生	菊知 充先生	岡田 俊先生	岡田 俊先生
参加人数	36	50	41	50	49	

ブロック	中国・四国			九州		
開催地	岡山	高松	福岡	鹿児島	沖縄	
開催日	3月11日	12月10日	1月28日	3月4日	11月12日	
講演Ⅰ	所属	高梁病院	いわきクリニック	久留米大学	市来保養院	琉球大学
	講師	原田俊樹先生	兼田康宏先生	富田 克先生	福元晋一郎先生	外間宏人先生
講演Ⅱ	所属	慈圭病院	牧病院	菊陽病院	菊陽病院	卯の会新垣病院
	講師	佐藤創一郎先生	牧 徳彦先生	尾上 毅先生	尾上 毅先生	國元憲文先生
参加人数	未	31	48	22	37	

(2007年3月5日現在)

### ★講演会レポート★

平成19年1月14日に開催された、大阪会場での様子をご紹介します。

場所は窓から大阪の街が一望できる天下の「梅田スカイビル」22階。講師は、非常に分かり易い講義をして下さると定評のある、京都大学の岡田俊先生にお願いし、午前中は「抗精神病薬の薬理作用と治療の実際」と題しての特別講演、午後は先生が実際に体験された症例を用いてのワークショップを行いました。

ワークショップの一症例目は、「急性期の薬物選択を考える」という課題。意思疎通のできないほどの興奮状態で救急搬送された患者さん。バイタルサインと家族からの少ない情報などを頼りに、使用する薬剤を選択。内服か？注射か？注射だとすると、筋注か？静注か？速効性の有無、呼吸抑制のリスクなど、多くの事柄を考慮し、その状況下で最適な薬剤選択について検討しました。二症例目は「スイッチングを考える症例」。強迫症状・幻覚妄想・解離様症状のある若年患者（中学生）に対してオランザピンが処方されていた。過食と急激な体重増加が見られ、糖尿病発症に至ったため、他剤への切り替えが必要となり、そのスイッチング計画（薬剤選択・用量設定）を考えるという設定。参加者は「問題点解決」のため、意見交換を活発に行いました。また解説では、薬剤選択の失敗例も紹介され、医師の苦勞（苦悩？）なども感じられる内容でした。

今回のディスカッションは、医師が実際に経験された臨床例を解説して頂いたということもあり、とても参考になりました。また、いつも以上に「こういう選択肢はどうか？」など、参加者からの多面的な提案や質問もあり、非常に有意義な検討が出来ました。

(宮本直治)



## 臨床業務Q & A

### Q：三環系抗うつ薬の長期投与で虫歯が増える訳

うつ病治療のため三環系抗うつ薬を服用中のMさんが、薬局を訪れてこのような質問をしました。

「最近、虫歯が多くなったと感じるのですが、どうしてでしょうか？別に甘いものなどは好んで食べている訳では無いのですが・・・？」

#### 【Mさんの処方】

R p) イミドール (25) 6錠 毎食後

ヒベルナ (5) 3錠 毎食後

アモバン (10) 1錠 寝る前

※この処方を約6ヶ月間継続している



**A**：三環系抗うつ薬では、抗コリン作用による唾液分泌の減少が起こり、それに伴う口腔環境の変化が虫歯（齲蝕：うしょく）を形成させる条件を作り出すと一般的に考えられています。1日1,500mLといわれている唾液分泌の低下が起こることにより、口腔内の水分量が低下し口腔内の細菌濃度が上昇、唾液の清浄作用の低下も手伝ってバイオフィルムである歯垢が増加。酸産生菌の増加、歯垢内、口腔内のpH低下し、歯牙からの脱灰が促進され酸の影響を受けやすくなります。

唾液は口腔内の衛生状態も保つ働きをしており、唾液に含まれる酵素の低下なども引き起こし口腔環境を劣悪なものにします。また、齲蝕などにより歯牙を失っている場合には、歯科治療に伴う異物（入れ歯など）の補綴物を使用している患者も多く、この場合、口腔内の補綴物は生体において異物であり、やはりバイオフィルムの絶好の付着部位となり、隣接する歯牙の齲蝕の要因ともなります。三環系抗うつ薬に限らず、医薬品による「口渇」の副作用は成分として全体の30%程度に認められており、医薬品を常用している場合には、口渇、口腔衛生についての注意や指導なども必要になります。

（青森大学薬学部 和田育男）

## 「どうしてヒトは妄想を抱くのか？」

統合失調症の原因は色々と言説がありますが、その中でもドパミン仮説が有力で、陽性症状と呼ばれる幻覚・妄想は、脳内のドパミン放出が多いと起こるとされています。このドパミンの異常と精神症状としての妄想との関係について、Kapurという先生がおもしろい論文（Am. J. Psychiatry 2003;160:13-23）を書いていますのでご紹介します。Kapurは「ドパミンは動機的顕現性（motivational salience）を媒介する」と表現しています。分かり易く言えば、「自分にとって行動を起こす必要がある、大事なものや興味を引くものを見たり聞いたりしたときに、ドパミンが放出される」ということです。例えば、ジャングルで虎に遭遇したとすると、脳内でドパミンが放出され、ヒトは逃げるという行動につながります。それはジャングルの中の虎の出現が顕現性（Salience）であるからで、居間でテレビに映ったジャングルの虎を見ても、普通は顕現性で無いためドパミンは出ないと考えることができます。これはドパミンと顕現性が正しい例ですが、これが異常に起こるのが統合失調症と考えることができます。例えば教室で自分の前に座っている生徒がペンで机を叩いたとしましょう。本来は何でもないことなのですが、このとき不幸にも異常なドパミンの放出がされて、このことに顕現性があると認識されると、その人は「前の生徒がペンを叩くこと」が、ジャングルで虎と遭遇したときと同じ重要性を持って、自分にとって意味のあることだと考えてしまいます。それが何度も繰り返されると、その人はいつしか「前に座っている生徒は机を叩くことで暗号を発信している」という妄想を抱くようになるかもしれません。このように、Kapurは異常なドパミンの発火によって、「異常な動機的顕現性」が起こり、これによって患者は「自分で妄想を作る」のだと説明しています。もちろんこのSalience仮説は仮説であり、統合失調症の症状のすべてを説明できるものではなく、Kapurもそれは認めています。しかしこれまで分からなかった、化学物質としてのドパミン異常と統合失調症の症状を結びつけようというKapurの努力は、新しい試みとして評価できるでしょう。（大塚製薬 倉橋伸幸）

## H19年度上期ブロック講演会開催案内（予定）

（2007年4月～9月）※詳しい日程・内容などにつきましては、後日改めてご連絡いたします。皆様多数のご参加をお願いいたします。

ブロック	場所	開催日	会場
北海道	札幌	6/3（日）	北海道医療大学 札幌サテライトキャンパス
東北	盛岡	6/3（日）	マリオス
	仙台	6/24（日）	仙台市民会館
関東甲信越	千葉	6/10（日）	大塚製薬会議室
	大宮	9/2（日）	大宮ソニックシティ
	東京	9/16（日）	JAホール
東海	名古屋	7/8（日）	ミッドランドホール（名古屋ミッドランドスクエア内）
北陸	金沢	6/10（日）	地場産業振興センター
近畿	大阪①	6/24（日）	梅田スカイビル
	大阪②	7/29（日）	梅田スカイビル
中四国	高知	5/20（日）	高新文化ホール
	広島	7/1（日）	ホテル広島ガーデンパレス
九州	福岡	7/22（日）	大塚製薬会議室
	熊本	9/22（土）	くまもと県民交流館「パレア」

## 最近の精神科医療に関する話題

平成16年、厚生労働省は「精神保健福祉の改革ビジョン」および「今後の障害保健福祉施策について（改革のグランドデザイン案）」を示し、この中で、「入院医療中心から地域生活中心へ」という施策を推し進めていくために、10年間で7万床を減らす計画を打ち出しました。また同時に、入院患者の早期退院に向けて、急性期、社会復帰リハ、重症療養等の病院の機能分化を促進しようとしています。それらをもとに、精神保健福祉法や医療法の改正が行われ、平成18年の4月には障害者自立支援法が施行されました。今後、この流れの中で精神科を取り巻く環境は大きく変わることが予想されます。そこで、私たち薬剤師です。数年先には病院の機能分化が進み、病棟単位で患者の病態に応じた関わりが求められるようになるでしょう。また、一方で病床数が削減され、多くの患者さんが地域で生活する時代となり、入院患者さんにだけに目を向けていい時代は終わります。精神科の治療において継続性が重要であるといわれています。また、退院＝社会復帰ではないとも言われています。退院後の服薬中断率が53%（海外報告）と言われている中、患者さんの再発、再入院を予防するため、また患者さんが安定した生活を送れるようにするため、そして、真の社会復帰を実現させるために、薬剤師も「病院」という垣根を越え、地域に出て行かなければならない時代がやってきます。その時のために、今から何を準備すればよいのかを考えるべきではないでしょうか。（天正雅美）

### 2007年度会費納入のご案内

（2007年4月～2008年3月：¥2,000-）

【郵便局】口座名：精神科臨床薬学研究会

口座番号：00170-2-578959

※昨年のみずほ銀行から郵便局に口座を変更いたしました。

※通信欄に、必ず施設名と会員名を記入してください。

※なるべく年度の初めに納入ください。

### 講演DVD「統合失調症（薬理学編～Part-2）」貸出について

2006年下期講演会を欠席された皆様にDVDを貸出いたします。

希望される方は事務局までご連絡下さい。

【事務局連絡先】 Fax番号が変更になります。

E-mail: [pcp-secretariat@nifty.com](mailto:pcp-secretariat@nifty.com)（※メールには必ず1.施設名、2.氏名、を記載して下さい。）

URL: <http://homepage2.nifty.com/pcprg/>（2007年4月1日より開設）

Fax: 03-3257-6534（2007年3月25日まで）

03-6717-1484（2007年3月26日より）

### 【編集後記】

去年、嵐の中を出航したこの会もアツという間に1年が過ぎました。時の流れは早い！と実感しています（特に我が身を鏡に映してみると…）。皆さん講演会やワークショップに参加されて如何でしたでしょうか？ なにかプラスになったと感じていただければ、そしてこのAdvanceの発行を心待ちにして貰えたら、と思っています。

もうすぐ春ですね！我らのPCP研究会にも桜の花が美しく、そして力強く咲きますように！

（K.S）

